トナシ沙參ハ더덕トイフコトヲ補註シ英祖廟ノ「山林經濟」ニモ沙參二月移種、經數年限大、作菜作脯作醬並佳、久食利人又治疝トテ沙參ヲ더덕ト訓ジテ居ル、日本語ガ朝鮮語カラ此ノ語ヲ借用シタカ朝鮮語ガ日本語カラ取リ入レタカハ別問題トシテ兩語ガ同一根原ニ出デタコトハ少シモ疑フベキ餘地ガ存シナイ、滿洲語 Huhuchu（沙參）ノ如キモ此ノ語ト關係アルラシク思ハレル唯朝鮮ニ於ケル더덕ナル語ガ日本語ニ於ケルガ如ク廣ク他ノ植物ノ名ニマデ適用セラレタ例ヲ發見シカネルノハ餘程趣ヲ異ニセルモノト言フコトガ出來ル（完）

註

（1）「本草綱目啓蒙」卷八、古朝鮮ノ判事官タリシ者ガ持來ッタノデ此ノ名ガアルトイハレテ居ル

（2）Japanische Encyclopaedia カラ採ッタトアル、「和漢三才圖會」人參、伊孛會牟ニヨッタモノデアラウ

（3）Koreanische med. Werke カラ採ッタトアル、「東醫寶鑑」等ノ Sim ヲ誤ッタモノデアラウ

（4）Klaproth: San kokf tsou ran to sets, ou Aperçu général des Trois Royaumes. (1832)

（5）Grube: Jučen-chinesisches Glossar. No. 588.

（6）延喜式卷三十七典藥寮「諸國進年料雜藥」ノ條

（7）續日本紀聖武天皇天平十一年十二月ノ條

（8）貝原益軒ノ「大和本草」、小野蘭山ノ「本草綱目啓蒙」ナド

（9）瀧澤馬琴「玄洞放言」

○世界ニ蔓コルひいろたけ（緋色茸）

故理學士　安田篤

山ニ行キ森ニ行ク時朽木ノ膚ニ生ジ居リテ獨リ其環境ニ類例ノナイ赤色ヲ呈シ能ク吾人ノ目カラ遁レ得ヌモノハ緋色茸デアル、本菌ハ學名ヲ Polystictus sanguineus (L.) Mey. ト云ヒ大正十年ニ牧野富太郎氏ガ攝津國箕

ひいろたけ (Polystictus sanguineus (L.) Mey.)

（大正十二年七月四日相州箱根底倉高山閣ニテ撮影、まめざくらノ枯幹ニ着生ス）

（牧野富太郎記）

面デ採集セラレタ此美シイ硬質菌ヲ同氏カラ贈ラレタ此菌ノ菌傘ハ腎臓形デ薄クテ平タク革質ヲ帯ビ全ク柄ヲ缺クカ或ハ頗ル短

カイ側柄ヲ具ヘ縦ハ二乃至六「センチメートル」幅ハ三乃至十二「センチメートル」厚サハ一乃至十「ミリメートル」アル表面ハ緋色ヲ帯ビ老ユルト褪色スル平滑デ稍光澤ガアリ微弱ナ同心的ノ輪層ヲ具ヘルカ或ハ全ク之ヲ缺テヰル傘緣ハ薄クテ鋭イ内部ノ肉ハ緋色ヲ呈スル菌柄ハ若シ存在スル場合ニハ楯形ヲ成シテ基物面ニ附著スル其長サハ一乃至六「ミリメートル」太サハ七乃至十八「ミリメートル」アル菌傘ノ裏ハ鮮赤色デ頗ル細カイ圓イ孔ヲ認メル此孔ハ菌管ノ口元デ菌管ハ極メテ短ク僅カニ〇・五乃至二「ミリメートル」ノ長サヲ有スルニ過ギナイ菌管ノ内面ニハ全體ニ小サナ楕圓形ノ胞子ヲ著ケテヰル

此菌ハ予ノ所藏スル標本ニヨルトあかまつ、もみ、すぎ、あかしで、しらかんば、くり、あまぐり、しひのき、こなら、みづなら、くは、やまざくら、もゝ、はぜのき、いたやかへで、しなのき等ヲ寄主トスル其分布モ中々廣ク北海道デハ後志、釧路、本島デハ陸中、陸前、加賀、越中、磐城、常陸、武藏、上野、下野、信濃、下總、伊豆、駿河、三河、伊勢、美濃、攝津、播磨、紀伊、淡路、備中、長門、因幡、伯耆、四國デハ阿波、伊豫、土佐、九州デハ豊後、日向、大隅、薩摩ニ産シ小笠原島、琉球、臺灣及ビ朝鮮ニモ産スル海外ニ於ケル分布モ頗ル廣クテ支那、比律賓、爪哇、スマトラ、ボルネオ、マラッカ、新西蘭、濠洲、タスマニア、亞弗利加、マダガスカル、北米、中米、南米、西印度諸島、大洋諸島ニ産シ世界中ノ暖地ニハ殆ド何處ニモ見出サレル位デアル

【牧野云フ】右緋色たけノ記事ハ安田君ガマダ達者ナ時分ニ本誌ノ爲メニ私ニ送ラレタモノデアル

○二三ノ菊科植物

久内清孝

●りゅうのうぎく

りゅうのうぎくノ舌狀花ハ概ネ雌性花デ多クハ雄蘂ノ發現ヲ見ナイモノナルコトハ極メ